

## 2. 2023 年度の取り組み

### 2-1. 大学院博士前期課程副専攻 GRIP の開講

GRIP プログラムは、千葉大学の Global Education 大学院国際実践教育の該当科目として開発され、2023 年度より大学院国際実践教育 GRIP として全学の学生が履修可能な 7 科目（8 単位）が開講された。

#### 2-1-1. Global Education 大学院国際実践教育

千葉大学の Global Education (<https://global-education.chiba-u.jp/>) の一つである、「大学院国際実践教育」とは、「大学院国際実践教育は、将来グローバルに活躍できる高度な実践型人材を育成することを目的とした千葉大学の大学院グローバルプログラムで、海外協定校の学生との協働学習を中心とした大学院国際実践教育の指定科目を、主専攻である研究科・学府での修了要件単位以外で、所定の履修要件に基づき履修するもの」である (<https://global-education.chiba-u.jp/globalstudies/>)。

本 GRIP プログラムにおいては、2022 年度の申請時より、この大学院国際実践教育に該当するプログラムとして開発・実施することを想定し、千葉大学学務部国際企画課と調整を行ってきた。選定・採択後には、実質的な準備に着手し、2023 年度には下記の図 9 の通り、「大学院国際実践教育」の全 9 プログラムのうちの一つとなった。

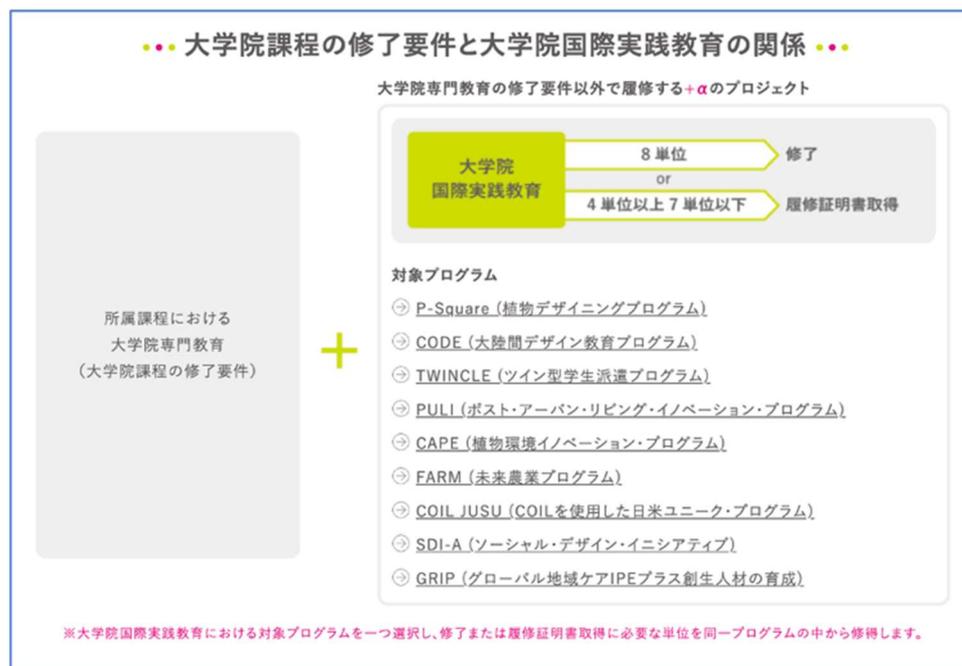


図 9 大学院課程の修了要件と大学院国際実践教育の関係 (千葉大学, 2023 年度)  
(千葉大学 Web サイトより, <https://global-education.chiba-u.jp/globalstudies/>)

上記の図9にも示した通り、「大学院国際実践教育」の学修については、「修了」と「履修証明書取得」の2通りがあり、本GRIPプログラムは「修了」のパターンとして設定する。つまり、図にもあるように、各大学院生が所属課程における大学院専門教育(大学院課程の修了要件)に加えて、GRIPの指定する7科目(8単位)を履修し単位認定されれば、大学院国際実践教育GRIP修了とする。なお、これら7科目については、すべてが自由科目であり、千葉大学の全学部・全研究科所属の学生が履修可能である。

## 2-1-2. 全学共通科としての開講

副専攻としての、大学院国際実践教育GRIP修了のための7科目開講は、2022年度に千葉大学大学院看護学研究科において承認され、同看護学研究科において2023年度の10月に、全学共通科目として開講した。これら7科目の概要は以下の表の通りである。大学院国際実践教育GRIP修了認定のためのこれら7科目の履修順序は特に規定しない。また、これら7科目は個別の履修も可能である。

なお、演習科目である「専門職間社会課題解決演習」を除く6科目は先行履修科目として学部生の受講も可能とした。講義科目については、第4ターム(10、11月)に開講した。演習科目である「専門職間社会課題解決演習(Interprofessional Service Learning: ISL)」は、2023年度はターム5、6に開講した。ISLに関連したオンラインでの事前学習は1月開始、現地渡航・演習を2月、事後のオンライン学習を3月に実施した。

表8 GRIP関連科目一覧

授業科目	単位数	形態	授業方法	授業科目の内容
専門職連携基礎	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	IPE(Interprofessional Education)の起源と理論的背景、必要性をSDGsの関連から論述し、基本的な理論から専門職連携実践活動を学ぶ。
専門職連携実践1	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	専門職連携実践活動に必要な役割と責任、コミュニケーション、患者・利用者・住民との関係構築を学ぶ。
専門職連携実践2	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	患者・利用者・住民へのサービス品質向上に向けた専門職連携実践のためのリーダーシップとメンバーシップと倫理的実践を学ぶ。
Cultural Competency and Cultural Humility	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	異なる伝統、教育システム、言語を持つ国同士のコミュニケーションを促進するインターカルチュラルな実践を学ぶ。
社会課題解決基礎	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	社会課題の解決に必要な地域アセスメント、課題抽出、目標設定、方策立案、評価計画立案の一連の流れをシミュレーションシナリオを用いて学ぶ。
社会課題解決応用	1	講義	メディア授業(非同期・双方向)	社会課題の解決に必要なステークホルダーとの合意形成と対立の解決方法、コンサルテーションの実際をシミュレーションシナリオを用いて学ぶ。
専門職間社会課題解決演習	2	演習	同期/非同期オンライン、現	海外の提携大学所在地において、現地のサービス活動にチームとして参加し、健康に関連した

(Interprofessional Service Learning: ISL)			地演習(海外連携大学)	社会課題解決に取り組む。事前学習、現地演習、事後のバーチャルワークショップにより構成する。
---	--	--	-------------	---

2023年度は上記の全科目のコンテンツを開発し、履修可能とした。専門職連携基礎、専門職連携実践1、専門職連携実践2についてはIPERCでの蓄積を基に、Cultural Competency and Cultural Humilityについては専門家であるメーカー亜希子氏のコンサルテーションを受けつつ構成した。社会課題解決基礎、社会課題解決応用では、社会課題解決のプロセスとスキルについて学ぶことを目的として、実際に地域における社会課題とその解決のための介入に取り組んでいる学内教員や、学外組織・施設等の支援者を講師として招聘し、実例について学ぶ構成とした。これにはISLのフィールドである活動や組織を含め、ISLにつながるものとする。

## 2-2. 教材開発

### 2-2-1. 学習要項の作成

学習ガイドとして、前年度のものを見直し、改訂版の学習要項を作成した(資料 参照)。構成は、GRIPプログラム概要、獲得する能力・到達目標、具体的な学習の流れ、フィールド演習のトピック、使用する学習ツール、ワークシート、最終プレゼンテーションのテンプレートなどから成る。これらを必要最小限としてコンパクトにまとめ、オンラインならびに紙面でも提示した。

内容はGRIPプログラム申請時書類および、参加学生募集説明用資料に準拠しており、特に、獲得をめざす能力とその到達目標については同内容である。

### 2-2-2. ワークシートおよび学習成果発表プレゼンテーション用テンプレートの作成

#### ワークシートの作成

取得・向上をめざす3つの能力について意識して学習に取り組み、自己の成長と学習課題を認識して計画的に学習活動に取り組むため、現地演習について、初日には計画立案のためのプランニングシート、そして、最終日(8日目)には計画達成状況の振り返りおよび、GRIPでの向上・獲得をめざすIPCP、社会課題解決、文化的対応力(Cultural Competency and Cultural Humility)の3つについて自己評価をおこなうリフレクションを行うためのシートを作成し、提示した。

#### 学習成果発表用プレゼンテーション用テンプレート

社会課題解決の能力の項目について焦点化するために、テンプレート化した。さらに、IPCPおよび文化的対応能力についても新たな気づきや自国との相違等について、発表項目として含めた。